



ご利用お待ちしております。左から三島さん、難波さん、栗之宮さん

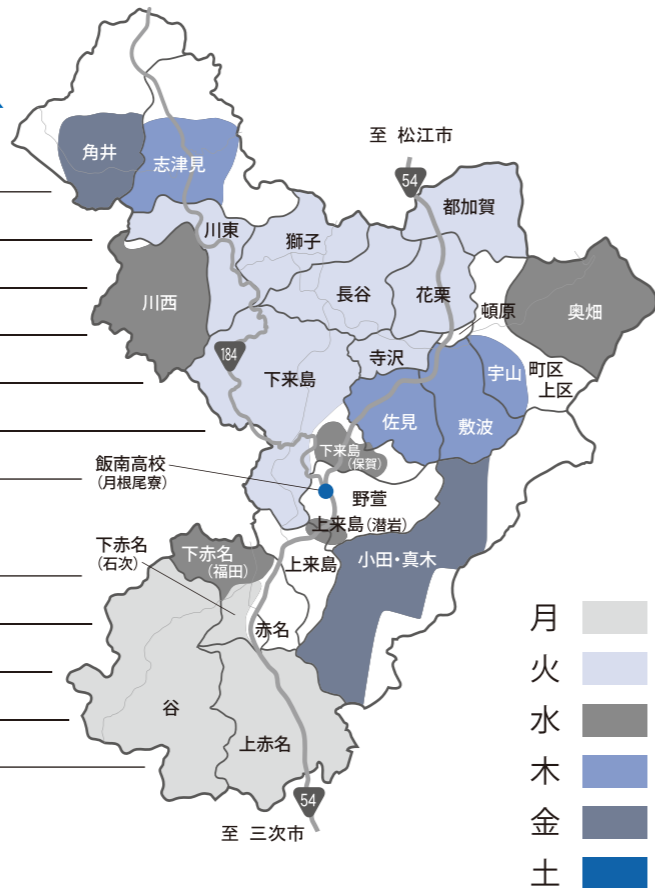
移動販売車巡回ルート

1号車 (運転手:栗之宮武司さん、三島文男さん)

月曜日	上赤名、下赤名(石次)、谷
火曜日	都加賀、花栗、長谷、寺沢、下来島
水曜日	奥畑、下来島(保賀)、上来島(潜岩)、下赤名(福田)
木曜日	佐見、敷波、宇山
金曜日	小田、真木
土曜日	飯南高校(月根尾寮)

2号車 (運転手:森山克彦さん)

火曜日	獅子、川東
水曜日	川西
木曜日	志津見
金曜日	角井



巡回ルートはおおまかなものになりますので、
詳細はお問い合わせください。
●お問い合わせ:(株)コンビニエンス飯南 ☎76-9290



移動販売のきっかけ

移動販売事業は、平成26年に開始。故難波恭二さんが、同級生を誘って始めました。今も事業を引き継ぐ、(株)コンビニエンス飯南の難波左江子代表は「地域のつながりが希薄になってきて、買い物するのにも、車に乗せてあげるなんてことも減ってきてたんでしょね。買い物するのも、苦労する人もいて。夫がそんな現状を従業員から聞いて、地域の見守りも含めて、移動販売を始めたんです」と話します。「町からも毎年、支援をしていただいていますけど、いつまで続けられるか不安もあるんです。ただ、運転手さんが頑張ってくれて、地域の皆さんからも頼りにされて。運転手さんのおかげです」と運転手さんへの感謝を口にします。

移動販売の事業が始まった当初から、今も運転手として働いているのは、上赤名地区や谷地区を受け持つ栗之宮武司さん。
栗之宮さんは「最初は誘われて、恭二の頼みだから始めてみたけど、長く続けるとお客さんからも頼りにされてるし、簡単にはやめられんなど思ってた、いつの間にか10年近く経ってしまったね」と話します。同級生のつながりから始めた運転手。笑顔で昔を振り返ります。

増える葛藤。広がるつながり

三島さんと栗之宮さんは、運転手を長く続けてきた中で、多くのお客さんと接してきました。長く続けられ続けるほど、うれしいことも悩むことも多くなります。

「移動販売では売っていない商品を要望されることもあるんです。でも販売できるのは「コンビニ」の商品だけ。移動販売を利用されるお客さんが本場に必要なのは、スーパーにあるような、例えば魚とか肉の生鮮食品であつたりすることがたくさんあります。そんな要望に応じてあげられないことに申し訳なさを感じています」と2人は神妙に話します。いつもお客さんの顔を思い浮かべて、商品を選んでいても、応えてあげられないことに葛藤があるそうです。

もう一つ、2人が悩んでいるのは、一人住まいの高齢者のこと。毎週買い物をしてくれて、顔を合わせて話をしていたお客さんが入院したり、亡くなられたりということも経験しています。「これまで、移動販売中にも買い物をしてくれるお宅で、何となく不安を感じ、隣のお宅に安否を確認したこともあるんです」と三島さん。お客さんの普段の様子を知っているからこそその行動でした。

二人住まいの高齢者さんが、移動販売で伺ったときに出てこられないことや、いつもおられる部屋におられないことがあつたんです。なかなか家の中に入っていくこともできませんし、玄関を開けて、呼びかけはしますが、返事がないと心配になります。1週間後も元気な顔をみられると、安心しますね」と話します。コンビニの移動販売車の運転手と

いう立場で、できることは限られている。その葛藤を抱えながらも、これまでに感謝の気持ちをもつて、相手に接してきました。
「これからのできる限りお客さんの要望に応じていきたいね」と話し、販売車に乗り込む三島さんと栗之宮さん。今日も移動販売車は、またつながりを運びます。

